

世界史 大阪大学 文学部 (前期) 1/3

(I)

問1	温暖化によって植生や動物の生態が変わると、狩猟・採集・漁撈による食糧の確保が困難になり、人類は狩猟・採集の獲得経済から農耕・牧畜による生産経済へと移行した。農耕・牧畜に適した道具として磨製石器や土器が作られ、新石器時代が始まった。生産経済の進展によって定住化が進み、人口増大が促されて、文明誕生の基礎が築かれた。(156字)

問2	鉄製農具の使用と牛耕が始まり、農業生産力が高まった。これに伴い家族単位の農業経営が可能になって氏族共同体の解体が進み、余剰生産物を取引することで商人や手工業者が活躍するようになり、青銅貨幣の流通も盛んになった。鉄器の使用によって森林伐採が進んだ結果、森林面積が大きく減少して華北の気候は乾燥化に向かった。(152字)

世界史 大阪大学 文学部 (前期) 2/3

(II)

問1	ロシア地域にルーシがノヴゴロド国，次いでキエフ公国を，北フランスにはノルマンディー公国が建てられた。イングランドには，デーン朝，次いでノルマン朝が成立した。南イタリアには，両シチリア王国が建設された。アイスランドを経て，北米大陸に到達した一派もみられた。ノルマン人から生命財産を守るため，西欧で封建制度の形成が進んだ。(159字)

問2	十字軍が展開される中，キリスト教勢力とイスラーム勢力との接触が深まった。シチリア島のパレルモなどで，アリストテレスに代表されるギリシアの古典が，アラビア語からラテン語へと翻訳された。それに刺激されて，ヨーロッパではスコラ学が発展し，医学などの自然科学も成長した。また学問の発展を背景に，各地に大学が成立した。(154字)

問3	オスマン帝国は，ユダヤ教徒にミッレトと呼ばれる宗教共同体を形成させ，ジズヤの支払を条件に自治を認めた。ユダヤ教徒は商業などで活躍し，帝国の繁栄を支えた。(76字)

世界史 大阪大学 文学部 (前期) 3/3

(Ⅲ)

問1	エンコミエンダ制
----	----------

問2	先住民を保護しカトリックに改宗させることを条件に、植民者に先住民の統治と使役を認めた制度であるが、植民者は先住民を保護することなく、鉱山や農場で酷使した。(77字)

問3	エ
----	---

問4	資料1からは、先住民を酷使・虐待する者がいる一方で、先住民を保護しようとする姿勢も読み取れるが、保護の目的は先住民の反抗を防ぎ植民者に従順に仕えさせることであった。資料2からは、先住民との共存や公正な関係を望むような姿勢が見られるが、図において処刑を担当しているのはいずれも植民者であり、植民者の法が優先されていることがわかる。このように、植民地における先住民は植民者に仕え、植民者に従属するべきものであると考えられていた。(212字)